



| 重点目標   | 具体的取組  | 主担当                        | 現 状   | 評価の観点   | 実現状況の達成度判断基準  | 判定基準            | 備考            |
|--|--|----------------------------|---|---|---|-----------------|---------------|
| <p>2 豊かな人間性の育成、健康や体力の増進、たくましい人づくりの推進</p> <p>・健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣を確立させるとともに、感染症対策の徹底を図る。</p> <p>・生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。</p> <p>・生徒理解を深め、いじめ・暴力・ネットトラブル等の問題行動や不登校の未然防止と早期の対応に努める。</p> | ① 日常での遅刻、服装、マナー等に関する基本的な生活習慣の指導を全教員で行う。  | 全教員<br>生徒課                 | 基本的な生活習慣が確立されている生徒が多いが、頭髪や制服の乱れが一部見られる。                     | 【成果指標】<br>頭髪服装検査において、再検査指導を受ける生徒の割合を10%未満にする。 | 【生徒】頭髪服装検査において、再検査指導を受ける生徒の割合が<br>A 10%未満<br>B 15%未満<br>C 20%未満<br>D 20%以上  | CまたはDの場合は改善策を検討 | 各学期1回以上検査して調査 |
|  | ② 感染症対策の徹底のため、保健衛生環境の整備を全教員で行う。  | 全教員<br>保健課                 | 感染症対策について取り組んでいるが、より一層組織的な対応が求められる。                         | 【成果指標】<br>感染症に対する対策に取り組んでいる。                  | 【教員】感染症対策について、校内で意識的に取り組んでいると答える教員の割合が<br>A 90%以上<br>B 80%以上<br>C 70%以上<br>D 70%未満  | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査     |
|  | ③ 鹿高祭、校内球技大会、校内合唱大会等の学校行事を通して生徒の自主性・協調性を育成する。                                  | 生徒課<br>全教員                 | 生徒会活動は活発であるが、豊かな人間性や社会性を育むため、より主体的な活動に取り組むようにすることが必要である。    | 【満足度指標】<br>生徒が主体的に参加し、生徒会活動に満足している。           | 【生徒】行事に対して満足感・達成感を持っている生徒の割合は<br>A 85%以上<br>B 75%以上<br>C 55%以上<br>D 55%未満<br><br>【保護者】子どもが学校生活を意欲的に送るようになったと答える保護者が<br>A 85%以上<br>B 75%以上<br>C 55%以上<br>D 55%未満 | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査     |
|  | ④ 部活動では健康・安全面を考慮し、有意義で充実した活動を行う。   | 生徒課<br>全教員<br>保健課          | 部活動は高い加入率が維持されているが、より積極的な部活動への参加が望まれる。                      | 【満足度指標】<br>部活動に意欲的に取り組み満足している。                | 【生徒】充実した部活動を実践していると感じる生徒が<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満   | Dの場合は練習方法等を見直す  | 7月と12月に調査     |
|  | ⑤ 問題を抱えている生徒に対して、生徒課・保健課・教育相談室・担任・学年主任を中心に全教員で連携し、解決にあたる。悩みを抱える生徒の早期発見早期対策を行う。 | 生徒課<br>保健課<br>教育相談室<br>全教員 | いじめ等の問題や心の問題を抱える生徒への支援については、ホーム担任が中心となっているが、より組織的な対応が求められる。 | 【成果指標】<br>生徒が意欲的に登校できるように支援する。                | 【教員】各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が<br>A 70%以上<br>B 60%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満  | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査     |

| 重点目標   | 具体的取組  | 主担当          | 現 状  | 評価の観点   | 実現状況の達成度判断基準   | 判定基準            | 備考        |
|--|--|--------------|--|---|--|-----------------|-----------|
| 3 キャリア教育の推進と進路指導体制の確立<br>・地域と連携した総合的な探究の時間等を通して、ふるさとや将来について考える機会を持たせ、主体的な進路の選択能力を育成するとともに、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指す。<br>・読書活動、進路学習、講演会、面談指導等を通して明確な進路目標を持たせ、進路実現を目指す態度を早期に実現する。<br>・教職員間の連携・協力を密にし、指導方法や指導体制を工夫して、3年間を見通した進路指導体制を構築する。 | ① 定期的な進路情報の提供に努め、大学見学会、進路希望別説明会、保護者懇談会、コース選択説明会、卒業生と語る会等進路ガイダンスを充実させる。<br><br>面談等により生徒の進路意識を高揚させ、積極的に進路実現を目指す態度を育成する。また、必要に応じて教科担当者の面談も行う。 | 進路指導課<br>担任  | 進路意識が希薄で目標設定が遅れがちで、進路実現のための準備が遅れてしまい、学力養成が十分できない生徒が多い。<br><br>進路意識の低い生徒に対し、面談などを通して進路目標や学習法の提示を積極的に行っていく必要がある。 | 【努力指標】<br>生徒の意欲を引き出す進路ガイダンスを実施する。             | 【教員（担任+進路指導課）】<br>半期に行う対象教員による進路ガイダンスの回数が5回以上である割合が<br>A 75%以上<br>B 65%以上<br>C 55%以上<br>D 55%未満<br>※進路ガイダンスには、個人面談、奨学金説明会、大学見学会、各学年集会の進路説明会、コース選択説明会、卒業生と語る会等を含める。 | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査 |
|  | ② 「総合的な探究の時間」の活動を通して、ふるさとや将来について考え、主体的な進路の選択能力を養う。   | 全教員<br>教務課   | 地元の方々との協働により、取組の成果が表れている。  | 【成果指標】<br>取組を主体的な進路の選択能力の育成に結び付ける。            | 【生徒】自分の進路希望を実現させるために必要な情報が何であるかをわかっている生徒の割合が<br>A 90%以上<br>B 80%以上<br>C 70%以上<br>D 70%未満   | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査 |
|  | ③ 朝読書や学級文庫等で、読書意欲を喚起し、読書の習慣を身につけさせることで、自分自身を見つめながら自己の将来についても考えることができる生徒を育成する。  | 総務課<br>担任    | 「自己の将来について考える」という効果に十分に結びついていない。積極的な働きかけが必要である。  | 【成果指標】<br>読書が進路について考えたり、進路を決定したりする際の動機づけになる。  | 【生徒】読書は進路について考えたり、社会や自分をみつめたりするうえで有意義であると答える生徒の割合が<br>A 90%以上<br>B 85%以上<br>C 80%以上<br>D 80%未満   | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査 |
|  | ④ 教科会議で各種の試験・模試等のデータを分析して生徒の状況を的確に把握した上で、授業や補習で指導する内容を検討する。幅広い進路選択に対してきめ細かく指導し進路実現を図る。   | 進路指導課<br>各教科 | 入試問題の研究をふまえて、各教科担当者で共通理解を得て指導改善を図る必要がある。   | 【努力指標】<br>入試問題の重要事項とその指導法について検討し、教科指導力を向上させる。 | 【教員】入試問題を念頭に置いた教科指導の改善に取り組んでいる教員の割合が<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満   | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査 |

| 重点目標   | 具体的取組   | 主担当                        | 現 状   | 評価の観点  | 実現状況の達成度判断基準  | 判定基準            | 備考        |
|--|---|----------------------------|---|--|---|-----------------|-----------|
| <p>4 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進</p> <p>・働き方改革への意識を高めながら業務改善を組織的に推進する。</p> <p>・学校公開、ホームページ、学校だより、マスメディア等によって広報活動の充実を図り、本校の教育活動の理解が深まるように努める。</p> <p>・中学校の生徒や保護者に本校の教育活動の特色や魅力を伝え、本校への志願者の確保に努める。</p> | ① 教員が業務効率化を進めながら、教育効果を高めるために組織的な改革に取り組む。                            | 全教職員                       | 業務の平準化に加えて、行事や業務の見直し等、業務の効率化に向けての対応は、まだ道半ばである。効率的でより効果的な業務が求められる。 | 【成果指標】<br>学校が組織的に業務効率改善に取り組むとともに、教員も業務効率化意識が高まっている。        | 【教員】学校が組織的に業務効率化を進めていることにより、業務効率化が進んでいると実感している教員の割合が<br>A 75%以上<br>B 65%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満        | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査 |
|  | ② 各課・学年と連携して教育効果を高める情報を保護者に提供し、学校と保護者が一体となるように、学校行事等への参加を積極的に呼びかける。 | 総務課<br>全教員                 | PTA総会や教育懇談会の出席率が低い。生徒が活躍する保護者にとって有益な情報を提供できるような取り組みが必要である。        | 【成果指標】<br>保護者が学校の教育活動に関心を持ち、本校に足を運びたいと思っている。               | 【保護者】PTA総会、PTA教育懇談会、教育ウィークなど年間を通して生徒や学校の様子を見に来校した保護者の延べ人数が<br>A 500人以上<br>B 400以上<br>C 250以上<br>D 250未満 | CまたはDの場合は改善策を検討 | 11月に調査    |
|  | ③ 学校と家庭が連携し、携帯電話、スマートフォンを適切に使用する態度を身につけさせるように働きかける。                 | 総務課<br>全教員                 | 携帯電話、スマートフォンに対する依存度が増加傾向にある。また、生徒と保護者の評価には開きがある。家庭との連携が不可欠である。    | 【成果指標】<br>保護者と生徒が相談してスマートフォンについての「家庭内ルール」を作り、そのルールが守られている。 | 【生徒】携帯電話、スマートフォンの「家庭内ルール」を「守っている」、「ほぼ守っている」と回答した生徒の割合が<br>A 85%以上<br>B 65%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満      | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査 |
|  | ④ ホームページの内容を充実させ、本校の教育活動の内容を保護者に理解してもらうとともに、学校配信メールによる情報提供の充実を図る。   | 総務課<br>教務課<br>進路指導課<br>全教員 | より一層ホームページや学校配信メールによる情報発信の充実を図る必要がある。                             | 【満足度指標】<br>ホームページや通信文書を見る保護者が多くない教育活動への理解が深まる。             | 【保護者】ホームページや学校からの通信文書により、教育活動が分かりやすいと感じている保護者の割合が<br>A 95%以上<br>B 90%以上<br>C 85%以上<br>D 85%未満           | CまたはDの場合は改善策を検討 | 7月と12月に調査 |